

# 津田

わがまち歩きマップ

むかしめぐり

津田地区  
わがまち自慢発掘プロジェクト実行委員会

## 津田わがまち歩きおすすめ散策コース



## 聖なる力で幸運をもたらす 神社・仏閣を訪ねる

1800年代はじめ頃の津田村は、東津田分194軒、西津田分77軒ほどの家しかありませんでしたが、当時神社が3、寺院は7ほどあったとされ、軒数に比して神社、仏閣が多くあったことから、村民の信仰心が厚かったことを伺わせます。

### ①鶴林山 長源寺 かくりんざん ちょうげんじ

天正10年(1582)、竹矢町安国寺中興立翁廣本禪師により開山され、観音菩薩を本尊としています。境内には日御碕大明神を祀る鎮守堂がある他、戦国武将・立原久綱の墓や尼子勝久の供養塔があります。  
また、津田小学校は明治6年(1873)5月に長源寺本堂を校舎として開設されています。  
■所在地／東津田町1030番地 TEL24-0640

### ②鷹日神社 たかひじんじや

東津田町に鎮座される鷹日神社は高御産靈神(天照大神の親神)や大日靈貴神(天照大神)を中心に多くの神々をお祭りし、長生き・商売繁盛・交通安全を祈願する津田中心の神社です。その由緒は古い文献の延喜式(西暦901年)に鷹日神社、また出雲風土記には多加比社と記され、西暦668年に天智天皇の夢に現れた白鹿の(高御産靈神の使い)故事にちなんで建設されたといわれています。毎年、蓮華祭(7月14日)、例大祭(10月19日)など多くのお祭りが実施されています。また、現在の社殿は平成19年に津田のひとびとの手により遷宮されたものです。  
■所在地／東津田町1376番地 TEL22-1920

### ③萬年山 吉祥寺 まんねんざん きちじょうじ

享保3年(1718)、布部の豪族島治右衛門隆則が祖先とたたら職人の菩提を弔うため、建立。元文2年(1737)に、岐阜県関市徳嚴寺惟慈道定大和尚が開山し、釈迦牟尼仏を本尊としています。境内には、遠江国の

秋葉寺から勧請された火防の神、秋葉三尺坊大権現が奉安されています。

■所在地／東津田町1347番地 TEL23-6983

### ④法隆山 常喜寺 ほうりゅうざん じょうきじ

寺町泉宗寺の末寺として同寺二世月叟亮胤大和尚により開山(開創年不詳)釈迦牟尼仏を本尊とし、創建当時のお寺は、国道9号線の北側、元菜園場付近に建立されていたが、火災のため寛政6年(1794)に現地に移転したと伝えられています。  
境内には聖観世音菩薩を祀る観音堂と松江藩家老朝日丹波守頼守の稲荷大明神の堂宇があります。  
■所在地／西津田5-5-43 TEL23-6873

### ⑤無学山 松月庵 むがくざん しょうげつあん

宝暦6年(1756)開創。禅覚寺二世無学絶宗大和尚が同寺の末庵として開山し、阿弥陀如来を本尊としています。境内には、大正12年の関東大震災物故者慰霊のために発願された、山内を一巡して礼うできる「新西園33番霊場」や一畑薬師如来、不動明王、大仏等多数の石仏が安置されています。  
■所在地／西津田5-11-28 TEL23-6744

### ⑥大山代神社 おおやましるじんじや

西津田の高低い丘の上に鎮座されるのが大山代神社です。山城日字命(悪病・悪魔退散の守り神)と大山祇命(収穫の神)の神様をお祭りにしています。  
西津田に古くからあった2つの神社(大山代神社と大山神社)はそれぞれ鷹日神社に合祀されていましたが、昭和48年に統合され、現在の場所に新社殿が建てられました。氏子は西津田はもちろん松原から東朝日町までの広い範囲で1,500戸を越える数となっています。  
元旦祭1月1日・節分祭2月3日・輪越祭6月30日・夏祭7月20日・例大祭10月20日等多くの祭りが行われ、なかでも秋の例大祭時に行われる神楽じたての「悪切り神事」は一見に値します。  
■所在地／西津田5-13-30 TEL22-1920

### ⑦長福山 禅覚寺 ちやうふくざん ぜんかくじ

宝暦7年(1757)宍道の小豆沢家の寄進により、兵庫県丹波市西光庵華嚴普海大和尚が同庵の末寺として開山、釈迦牟尼仏を本尊とし、境内には開運稲荷社と最上稲荷分社の堂宇があります。また、平成5年には津田唯一の鐘樓が完成し、毎朝6時に梵鐘が撞かれ、除夜の鐘は一般開放されています。  
■所在地／西津田5-12-34 TEL23-6744

### ⑧開運稲荷社 かいうんいなりじや

本殿には「開運稲荷大明神(南北朝時代の建武の忠臣、楠木正成が信仰していた稲荷とも伝えられている)」が奉安されています。  
故君礼次郎首相のご母堂(義母)は、子息の成功を祈願して毎日参拝され、そのご縁で拝殿建立に際し、若槻首相の揮毫による「開運稲荷社」の扁額が奉納されています。  
■所在地／西津田5-12-34 TEL23-6744

### ⑨法龍山 善福寺 ほうりゅうざん ぜんぶくじ

天正10年(1582)、竹矢町安国寺中興立翁廣本禪師が開山し、釈迦牟尼仏を本尊としています。境内には観音堂、地藏堂、秋葉堂の他、昭和62年に開眼した石造りの別格如意輪観世音菩薩(清水洋一氏製作)、八体仏・濱頭盧尊者(坪内正史氏製作)等多数の石仏が安置されています。また、本堂の棟は一部に龍が配られた棟瓦で造営されています。  
■所在地／西津田3-1-41 TEL23-3180

### ⑩津田明神・和田山 安楽寺 つだみょうじん わだざん あんらくじ

延宝3年(1675)、和多見町慈雲寺6世日寛上人が開山。通称、津田明神といわれています。本尊は十界大曼荼羅御本尊。雲陽誌に「当寺勧請の七面大明神は、甲州身延にて日蓮聖人説法の時出現の靈神なり」と記され、身延の東七面山に対し西の七面山の誇称もあります。また山内には、33年目に開扉の秘伝天拝鬼子母神、日蓮聖人像(室町時代作)、大黒尊天等が祀られています。  
■所在地／西津田10-4-48 TEL21-5792

## 津田の歳時記

【とんどまつり】  
左義長と呼ばれ、小正月(1月15日)に行われる火祭りの行事で、西津田運動公園で毎年行っています。  
長い青竹を組んで立て、その年飾った門松や注連飾り、書き初めなどを持ち寄って焼きます。この火で焼いたお餅を食べるとその年は病氣にかからないと言われる、書き初めを燃やした時に炎が高く上がるほど字が上達すると言われていす。また、門松や注連飾りによってお迎えた歳の神様を、それを焼く炎とともにお見送りするのだとも言われています。  
勢いよく燃え上がるとんどさん

【歳徳神と宮練り】  
出雲地方では歳徳神を祭る特色のある正月行事が伝承されています。歳徳神とは、毎年正月に各家にやってくる来方神で、集落ごとに講中という会員で祭られています。集落ごとの講中が集まって小宴の後に、歳徳神宮(御神輿)をかつぎ出し、小唄を歌って練り歩き、各戸にて飲食をもてなされ、最後に宮蔵へ収めます。このとき鑿(太鼓)をたたいて練り歩く伝統の行事が行われてきました。同時に、子ども向け「とんど宿」や注連縄等をおはやすする「とんど焼き」も行われてきました。

津田地区でも、各集落ごとに行われてきましたが、御神輿の担ぎ手が減少し、御神輿を練り歩くのは、西津田西組講中・西津田東組講中・中島講中(東2区)の三つの講中程度と少なくなっていました。

【七夕まつり】  
7月上旬、津田小学校の南側の沿道100メートルを七夕飾りで彩る、七夕通りができます。地域の世代間交流と七夕の伝統を若い世代にも受け継いでもらおうと平成24年からスタートしたお祭りです。地元の山から長さ5メートルの竹を100本程切り出し、幼稚園、小学校の児童や地域の人々が飾り付けをし、沿道のフェンスに立てかけます。時折吹く風にさらさらと揺れる笹の葉と短冊が道行き人の目を楽しませます。

## 古の時の流れを今に伝える 古墳をめぐる

津田地区の東西に連なる丘陵地帯には古墳群が点在し、また、馬橋川流域の石台遺跡からは縄文・弥生時代の遺物が発見されています。現在は、土地造成などでかなりの遺跡が消滅してしまったり、土地の様相が変わって遺跡がどうかの判断が出来なくなったりしています。

### ①奥金見古墳群 おくかねみこふんぐん

室藤古墳から西へ古道を歩き、美月東児童公園の南向かい側の尾根にある古墳です。高さ1.5m、幅12m四方の小規模な方墳で、南側が道路で削り取られています。  
1号墳の東側に2号墳がありましたが、現在は場所がはっきりしていません。

### ②室藤古墳群 むろふじこふんぐん

緑山公園西側から西方に向かって延びている道、広瀬街道から松江に至るいわゆる中世の古道の途中にあります。長さ20mばかりの小さな前方後方墳で、周囲には幅約2mの堀があります。前方後方墳はこの地域では珍しいものです。  
また、1号墳は、この古墳の西側にある幅14mばかりの方墳で未調査です。

## 津田の産物

【津田の野菜】  
津田の篤農家の努力によって、全国的に有名な品種が生まれました。なかでも「津田かぶ」は今も有名で、「紋兵衛かぶ」「うぐいすかぶ」とも呼ばれていますが、東津田村の立原紋兵衛が改良したものです。  
他に「津田大長茄子」や西津田村の恩田福五郎とその子喜助が改良したと言われる「津田大長節成胡瓜」がありますが、現在これら野菜は商品としては作られなくなりました。

【菅笠】  
農家の内職として作られた「菅笠」は、雲陽国益鑑番付(松江藩の財政を潤した産物の順番)に載っており、松江藩の財政に貢献しています。1700年代後半には津田地区で4万枚近くの生産があったと言われています。大正の初めごろまで続いていたようですが、麦藁帽子などの登場で作られなくなりました。

【はぜの表】  
松江藩では、ハゼの実を絞り木蠟を採ってロウソクを作り、その販売により大きな利益を上げました。  
宝永2年(1705年)頃、松江藩の勝田次郎左衛門が琉球(今の沖縄県)から仕入れた琉球ハゼは、西津田、東津田で苗が育てられ、藩の命令で藩内各地へ配られて栽培されました。東津田の植圃もそのひとつでした。  
今も植圃の地名は東津田に残っていますが、当時の木は、もう見あたらなくなりました。

【葉用人参】  
松江藩の葉用人参栽培は、城内の木苗方で試作をし、安永3年(1706年)に東津田において初めて人参畑を作り、小村新藏という人を番人として栽培に当たりましたが、成果はあまり上がりませんでした。  
その後、文化元年(1804年)新藏の息子茂重が苦勞して日光から栽培・製法等の技術を持ち帰り、古志原に人参畑を作りました。文化13年(1816年)には人参方役所を古志原に設置するほど成果を上げ、藩の財政のために大きく役立ちました。人参方が寺町に移転したのは文政8年(1825年)のことです。

### ③論田横穴古墳群 ろんでんよこあなこふんぐん

松江四中の校地造成の工事中に偶然発見されたものです。1号穴から5号穴まで5つの横穴が確認されましたが、これ以外にあと2穴以上は存在していたのではないかと推定されています。2号穴には來待石を組み合わせた家形石棺が安置されていました。現在、松江四中西側の山の斜面に保存してあります。  
また、これら横穴古墳群の上方の尾根には、1号から4号までの古墳が確認されています。

### ④岡(喰ヶ谷)古墳群 おか(はみがたに)こふんぐん

つつじヶ丘住宅団地造成時の調査で、1号墳から3号墳まで小規模の方墳が発見されました。  
1号墳からは組み合わせた石棺が発掘され、中に遺体の枕にしたと思われる陶器が置いてありました。この石棺は、現在、つつじヶ丘住宅団地の元遊園地に保存されています。

### ⑤石屋古墳 いしやこふん

昭和53年、住宅地造成の時に発見された県内最大級の大形方墳です。  
南側と北側に造り出しと呼ばれる台状の突起部分があり、埋葬された人のお祭りをする時に使う場所でないかと考えられています。  
5世紀中ごろ(古墳時代中期)のものだと推定され、中海の西側から大橋川にかけての水運を握っていた豪族の墓ではないかと思われます。現在、国指定の史跡となっています。  
また、発掘調査の時、この古墳からは力士形埴輪など人物埴輪が6点まとも出土していますが、人物埴輪5点はいずれも推定の高さが110～120cmとみられ、大型の全身立像では国内最古。そして、人物埴輪のセットでの出土は、古墳時代中期では例がなく、現在、復元調査している鳥根県古代文化センターでは、国内最古のものだと確認しています。

## ACCESS

津田公民館までのアクセス

バスで

- JR松江駅南バス停より、松江市営バスの南循環バス外回り線に乗車、津田小学校前で下車。徒歩約2分。
- 山陰道松江東ランプで降り、北へ4つ目の信号を右折。所要時間／約3分。
- 国道9号線津田小学校入り口から南進、最初の信号を左折。所要時間／約1分。



【編集・発行】  
津田地区わがまち自慢発掘プロジェクト実行委員会

【連絡先】  
松江市津田公民館  
〒690-0011 松江市松江市東津田町1189-1  
TEL0852-26-4962 FAX0852-21-4661

平成25年3月発行(複写禁止)

## 堀尾吉晴公親子も通った 中世の古道を訪ねる

緑山公園から榎山の尾根に売豆紀神社へと通じる古道は、中世の時代、広瀬から松江を結ぶ重要な道で、人の往来や生活を支える物資を運ぶなど重要な役目を果たし、堀尾吉晴公親子もこの道を通りました。散歩にも最適なで、四季折々の風情を楽しんだり、松江の町並みが一望できる景色の良い場所に立ち寄りながら歩くと、爽快感が広がり、疲れを忘れさせてくれます。

### ①緑山公園(緑山苑) りょくざんこうえん(りょくざんえん)

緑山苑は、元歩兵第63連隊の陸軍墓地として、明治41年(1908)、設置されました。墓碑は、昭和の初期には一基でしたが、昭和15年(1940)頃には411基、太平洋戦争末期には約一千柱を数えました。参道の両側に、兵、下士官、将校の順に墓碑が整然と並び、四季、緑香の煙が絶えませんでした。戦後、占領軍の指令により、公共団体の祭祀が禁止され、訪れる人も無く荒廃しました。  
昭和21年、松江市は国から管理の委託を受け、その祭祀を松江宗教連盟に委託しました。宗教連盟は、忠霊塔を撤去して慰霊塔を建て、その台下に遺骨を収納し、礼拝堂を建てるなど整備を行い、墓石の多くは慰霊塔の台石となりました。昭和23年10月、遺族が参列し、竣工奉告祭が行われ、墓地は緑山苑として生まれ変わりました。  
現在、桜の美しい史跡公園として、松江市民に親しまれています。

### ②四百年桜 よんひゃくねんざくら

緑山公園のすぐそばに、山桜の古木があります。柵で囲まれた古木は、大小5本に分かれて生長していて、幹周りが5メートルは優れにあり、枝は東西に16メートル、南北に18メートルもある大木です。樹齢は、おおよそ500年位といわれ、開花期は4月中旬で、今も見事な花を咲かせます。400年桜を眺めたと見えます。このことから、四百年桜といえます。別名「吉晴桜」ともいいます。この古道には、他に榎山NTT無線中継所前、樹齢200年といわれる幹周りが3.5メートルの霞桜の大木もあります。